

# 経営の状況

- 2022年9月末 -

東日本信用漁業協同組合連合会

## 1. 事業の概況

令和4年度上期につきましては、新型コロナウイルス感染拡大が抑えられる中で個人消費は増加基調を維持し、設備投資や輸出も増加しました。しかし、円安に伴う物価上昇等を受け、経済は停滞しました。

このような状況下において、当連合会では都県域毎の状況に応じた営業活動に取り組みました。

### (1) 貯金業務

懸賞品付き定期貯金「ギョギョいちの美味しいおさかながあたるキャンペーン」の販売等、貯蓄推進活動に取り組めました。しかしながら、公金貯金が大きく減少したことに加え、水揚げの低迷・コロナ禍での水産物の需要の低迷に伴い、令和4年9月末の貯金は7,010億円（前年同期比▲214億円）の実績となりました。

令和4年度下期も貯蓄キャンペーンの実施等を通じて安定的な調達に努めてまいります。

### (2) 貸出業務

新型コロナウイルス感染拡大の一服を受けて、会員等お客様の訪問機会が増加したこと、ローンキャンペーンに取り組んだこと等に伴い、令和4年9月末の貸出金は1,228億円（前年同期比+35億円）の実績となりました。

なお、令和4年度下期も会員・組合員等からの相談対応に基づく資金対応に努めてまいります。

### (3) 収支状況

短期政策金利をマイナス・長期金利操作目標を上限0.25%とする金融政策が維持されていることから、厳しい運用環境が継続し貸出金利息収入が減少しました。一方、収益の低下に対応するため経費の節減に取り組んだ結果、令和4年度上期の当期剰余金は219百万円（前年同期比▲54百万円）の実績となりました。

## 2. 主要な取組み

令和4年度上期は「広域再編計画」に基づき、以下の取組を実施いたしました。下期も経営の安定運営・効率化、漁業金融機能・内部管理体制の強化に努めてまいります。

### (1) 経営の安定運営と効率化

- ① 愛知県信漁連合併後の安定運営
- ② 会内システムを活用した業務運営の効率化
- ③ 事業・組織変革（新たな組織整備含む）に向けた継続的な検討

### (2) 浜に出向く体制の構築と漁業金融機能の強化

- ① 各県の漁業情勢・支店体制等を踏まえた漁業金融態勢の機能強化・実績確保
- ② 現場の実情を踏まえた業務研修等の実践を通じた人材育成

### (3) 内部管理体制の強化

- ① 組織全体としての一体感の醸成・本支店間のコミュニケーション強化
- ② 諸手続整備と役職員への周知徹底による内部統制の強化
- ③ 公認会計士監査に向けた態勢強化

### 3. 主要勘定残高の状況

(単位:百万円)

	令和4年9月末	令和4年3月末	令和3年9月末
貯金	700,992	707,374	722,433
貸出金	122,777	122,964	119,260
預け金	573,325	583,071	599,439
有価証券	12,448	12,795	14,649

### 4. 損益の状況

(単位:百万円)

	令和4年9月末	令和4年3月末	令和3年9月末
経常利益	237	996	305
当期剰余金	219	727	273

### 5. 信用事業命令及び金融再生法に基づく開示債権

(単位:百万円)

	令和4年9月末	令和4年3月末	令和3年9月末
破産更生債権およびこれらに準ずる債権	2,796	2,906	2,754
危険債権	3,877	3,976	3,613
要管理債権	71	73	250
三月以上延滞債権	0	0	0
貸出条件緩和債権	71	73	250
不良債権合計	6,743	6,957	6,617
正常債権	116,593	116,531	113,222

令和4年9月末の債権額は次の方法により算定しています。

- ① 各債権額は令和4年3月末時点を基準として、対象債権残高を修正しています。
- ② 令和4年3月末以降に債務者区分の変更が必要と認められる債務者については、9月末時点の対象債権残高を修正しています。

- (注1) 「破産更生債権およびこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の理由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権をいいます。
- (注2) 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。
- (注3) 「要管理債権」とは、基本的には、「三月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権をいいます。
- (注4) 「正常債権」とは、債務者の財政状態および経営成績に特に問題がないものとして、「破産更生債権およびこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外のものに区分される債権をいいます。

## 6.金利リスクに関する事項

IRRBB1 金利リスク

(単位:百万円)

項番		イ	ロ	ハ	ニ
		△EVE		△NII	
		当半期末	前半期末	当半期末	前半期末
1	上方平行シフト	1,458	1,556	1,512	1,496
2	下方平行シフト	0	0	130	125
3	スティープ化	1,643	1,766		
4	フラット化	0	65		
5	短期金利上昇	214	197		
6	短期金利低下	240	0		
7	最大値	1,643	1,766	1,512	1,496
		ホ		ヘ	
		当半期末		前半期末	
8	自己資本の額	30,146		29,465	

金融庁・農林水産省告示第5号「漁業協同組合等の自己資本の充実の状況等についての開示事項」に基づき算出しております。

## 7.単体自己資本比率

(単位:%)

	令和4年9月末	令和4年3月末	令和3年9月末
単体自己資本比率	12.37	12.23	11.90

令和4年9月末の自己資本比率は、令和4年3月末時点の自己資本の額を基準としておりますが、令和4年3月末以降に自己資本の額に大きな変更が生じ、自己資本比率に影響がある場合は必要な修正をしています。

○記載金額は、原則として単位未満を切り捨てて表示しております。  
そのため合計欄等が一致しない場合があります。